

「浜のミサンガ 環(たまき)」が結ぶ、 岩手・三陸と静岡・由比の皆さんの“浜と浜の交流”がスタート

三陸の女性や漁師たちが静岡を訪問 「浜のミサンガ 環 復興語りキャラバン&いわて三陸復興食堂」開催

三陸の女性たちが復興の想いを込めて作る「浜のミサンガ 環」実演・販売と復興語り
震災後の三陸の11か月を、生の声と写真・映像で伝えます

2/19(日)10時～14時 由比・蒲浦「富士川桜えび干し体験見学会場」

12時～17時 清水港「エスパルス ドリームプラザ」内 特設会場

三陸に仕事を！プロジェクト実行委員会は、東日本大震災で被害を受けた岩手県三陸町と陸前高田市の浜の女性や漁師達が、同じく浜の町である由比の漁業者の皆さんに、復興を目指した新たな浜の町づくりを学ぶ“浜と浜との交流”をスタートしましたのでお知らせします。

来たる2月19日(日)、三陸町と陸前高田市で「浜のミサンガ 環(たまき)」を作る女性達と漁師達が来静し、「浜のミサンガ 環(たまき) 復興語りキャラバン&いわて三陸復興食堂」と題した交流イベントを行いますので、報道関係者の皆様にはぜひご取材いただきたくご案内します。

■浜の女性たちが復興へ願いを込め、漁網で手作りした「浜のミサンガ 環(たまき)」

昨年6月、岩手県大船渡市三陸町で甚大な津波被害を受けた浜の女性たちは、いわし漁などに使われる漁網と麻紐を使って手仕事を始めました。この「浜のミサンガ 環(たまき)」は、浜から浜へと広がっていき、これまでに岩手・宮城の約300人の作り手によって12万セット以上(2012年1月31日現在)を生産してきました。ミサンガ1セットをご購入いただくと約700円以上が被災地の皆さんの賃金となり地域に雇用を生み出す“キャッシュ・フォー・ワーク”の手法で被災者の自立支援を目指しています。

■津波で全てを失った三陸と支援いただいた由比の皆さんが絆を深め、新たな「浜の町の未来」を。

未曾有の大震災からまもなく1年。津波で失った三陸の港や漁場の復旧は依然として進んでいません。浜の人々は仮設住宅には入居したものの生活を支える仕事の確保はまだまだ難しく、大きな不安を抱えています。そんななかで被災漁業者自らが、陽光あふれる富士山と駿河湾に育まれた「日本一の桜えびの浜・由比」の漁業者との交流から、新たな「浜の町づくり」のビジョンを描き動き出します。

2/12には、由比漁協の皆さん16名が三陸町を訪れ、合同ワークショップや「桜えびのかき揚げそば」の炊き出しなどを行う予定で、全く異なった浜同士の継続した交流が始まりました。

■2/19(日)「浜のミサンガ 環(たまき) 復興語りキャラバン&いわて三陸復興食堂」開催

19日のイベントでは、復興への祈りを込めてミサンガを作ってきた浜の女性たちが、手仕事の実演と販売を行いながら復興への想いを直接語り、支援いただいた静岡の皆さんと交流します。加えて当日は、被災地で活動を続けてきた炊き出しキャラバン「いわて三陸復興食堂」も静岡の皆さんとの交流と出会いをサポート。「三陸復興 イカ焼きそば」、「三陸タコ唐揚げ&秋鮭フライ」などを提供します。また三陸町と陸前高田市の「震災から復興への写真館・映像館」も実施します。

<本件に関する報道関係の皆様からのお問合せ先>

「三陸に仕事を！プロジェクト」広報デスク(プランニング・ボート) 福嶋・瀬尾
TEL: 03-5645-6600(内線819) 携帯TEL: 090-8163-3160(福嶋)

<一般の皆様からのお問合せ先>

三陸に仕事を！プロジェクト実行委員会 info@sanriku-shigoto-project.com

※大変お手数ではございますが会場準備の都合上、ご取材いただける方は2月17日(金)までにFAX返信用紙または、お電話にてご連絡いただきたくお願い申し上げます。

開催概要

- 名称 「浜のミサンガ 環 (たまき) 復興語りキャラバン&いわて三陸復興食堂」
- 日時・場所 2012年2月19日(日)
10:00~14:00 由比・蒲浦「富士川桜えび干し体験見学会場」
住所: 静岡市清水区蒲原 富士川河川敷
12:00~17:00 清水港「エスパルス ドリームプラザ」内 特設会場
住所: 静岡市清水区入船町13-15
※雨天時は、由比・蒲浦「富士川桜えび干し体験見学会場」会場が由比漁協内特設会場と変更になります。
- 主催 三陸に仕事を!プロジェクト実行委員会
- 入場 無料
- 目的 東日本大震災で被害を受けた岩手県三陸町と陸前高田市の浜の女性や漁師達が、同じく浜の町である由比の漁業者の皆さんに「復興を目指した新たな浜の町づくり」を学ぶ“浜と浜との交流”と“絆づくり”
- 内容 1) 「浜のミサンガ 環」三陸の作り手女性たちによる実演・販売&復興語り
「浜のミサンガ 環 (たまき)」(太・細2本セット/1,100円税込)
ブルーバージョン(青)・ウインターバージョン(緑)・ホワイトバージョン(白)・
さくらなでしこバージョン(ピンク)の4種を手作りしながら販売します。
2) 三陸町、陸前高田市の「震災から復興への写真館・映像館」
3) 「いわて三陸復興食堂」活動記録写真展&イートイン
・三陸復興 イカ焼きそば
・三陸唐揚げセット 三陸タコ唐揚げ&秋鮭フライ
※飲食コーナーは無くなり次第終了
- 参加者 三陸町と陸前高田市の「浜のミサンガ 環」の作り手や漁業者など
(富士川会場: 三陸町10名、ドリームプラザ会場: 陸前高田市8名)



「浜のミサンガ 環」【上】
と三陸の作り手の皆さん

「三陸に仕事を！プロジェクト」について

未曾有の大震災から1年が経とうとしています。避難所から仮設住宅へと住まいは移ったものの、地域の暮らしを支え、生きていくための原動力となる「仕事」はまだまだ得られていません。仮設住宅に移ることで、暖房費を初めとした水道光熱費などの支払いが必要になってきました。被災地にはなかなか思うような仕事が無く、故郷から離れざるを得ない人たちが増えてきています。

これらを打開するために、お金だけのためではなく、やりがい、張りあい、そして未来に希望をつなぐ心の糧を創出する「キャッシュ・フォー・ワーク」を取り入れたのが、三陸に仕事を！プロジェクト「浜のミサンガ 環（たまき）」です。

このプロジェクトは、被災地で雇用を生み、被災地にお金を還流させ、仕事があることで元気を生む、仕組みです。大船渡市三陸町や釜石市などの生産グループ数名でスタートしましたが、浜から浜へ、ついには県を越え 宮城県までの広がりを見せています。震災直後は、家も家族も失って、茫然としてこもりがちになり、未来も希望も見えない日々が続きましたが、囲炉裏で仲間と一緒におしゃべりをしながら、一生懸命ミサンガ作りに励むことで、静かだった被災地に笑い声や、今後の話をする場が生まれました。

“環”とは、日本古来のブレスレットの呼称です。被災地にあった使われない漁網を利用し、ひとつひとつ漁網で編んだオリジナルのミサンガは、被災者の女性たちがグループになって手仕事で作り、2011年6月に第一期限定販売、その後も東北地方をはじめ全国各地の店舗やインターネットを通じて販売してきました。

ミサンガの販売代金1,100円(1セット・税込)のうち、材料費や販売経費、諸経費を除いた576円が作り手の方々の賃金となります。また、材料である網を切ったりする二次加工を担い、作り手さんをサポートする現地の被災企業・被災者の方々にも1セットにつき154円(為替や材料費の変動で変化)が支払われ、被災地の方々の収入になります。

●キャッシュ・フォー・ワーク報告 2011年12月31日現在

[生産数]	118,028 セット
[販売数]	101,555 セット
[作り手さんの人数]	298 人
[作り手さんの収入]	67,984,128 円
[生産管理者さんたちの収入]	10,386,464 円



※キャッシュ・フォー・ワーク(Cash for Work)とは

「労働対価による支援」の訳。被災された方々みずからが復

旧・復興のために働き、それに対して対価を支払う支援プログラムのことです。多くの途上国の災害復興の場面で採用されてきた実績があります。例えば2004年のインド洋大津波災害の被害を受けたインドネシア、2008年にミャンマーを襲ったサイクロン災害、2010年のハイチ大地震など、こうした災害では多くのNGOや国連機関によりCFWが実施され、その効果を挙げてきました。

- ・運営母体： 三陸に仕事を！プロジェクト実行委員会
- ・事務局： 岩手めんこいテレビ・仙台放送・盛岡博報堂・仙台博報堂・博報堂テーマビジネスユニット
- ・活動推薦団体： キャッシュ・フォー・ワーク・ジャパン
代表 永松伸吾（関西大学社会安全学部 准教授）

【FAX返信先：03—6730—9593】

《FAX返信用紙》

「三陸に仕事を!プロジェクト」広報デスク
(プランニング・ボート内) 福嶋・瀬尾 宛

**「浜のミサンガ 環(たまき)」が結ぶ、
岩手・三陸と静岡・由比の皆さんの“浜と浜の交流”がスタート**

**三陸の女性や漁師たちが静岡を訪問
「浜のミサンガ 環 復興語りキャラバン&いわて三陸復興食堂」開催**

三陸の女性たちが復興の想いを込め作る「浜のミサンガ 環」実演・販売と復興語り
三陸の11か月を、生の声と写真・映像でお伝えします

2/19(日)10時~14時 由比・蒲浦 「富士川桜えび干し体験見学会場」

12時~17時 清水港 「エスパルス ドリームプラザ」内 特設会場

取材 (____ 時頃 ~)

富士川会場

ドリームプラザ会場

媒体名		
御社名		
部署名		
ご芳名	他 _____ 名様	
連絡先	TEL _____	FAX _____

《備考欄》 ご取材につきご要望・ご質問等ございましたら、ご記入願います。

※大変お手数ではございますが会場準備の都合止、ご取材いただける方は2月17日(金)までに
FAX返信用紙または、お電話にてご連絡いただきたくお願い申し上げます。